

宮古島市 neo 歴史文化ロード

綾道 〽城辺東・北コース〽

綾道

城辺東・北コース

宮古島市教育委員会



綾道

あやんつ

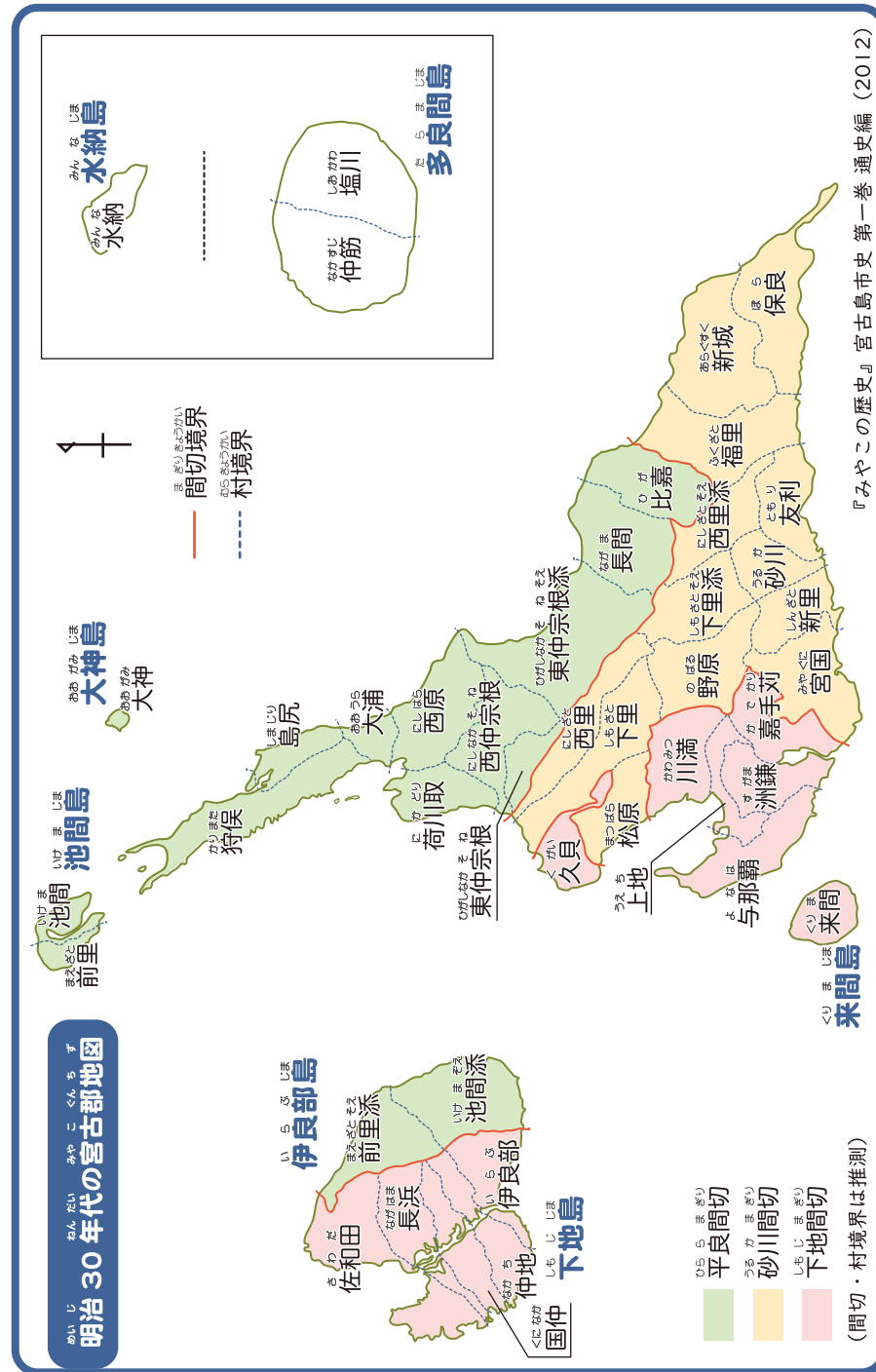
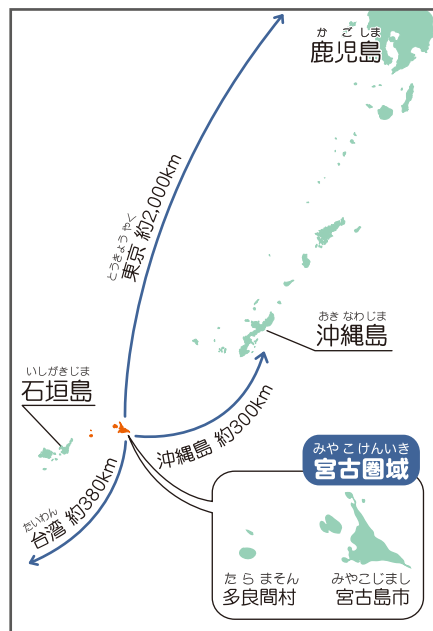
おもむき みち みやこ
「趣のある道」のことを、宮古のことばで「あやんつ」といいます

みやこしまし いちめんせき 宮古島の位置と面積

みやこしまし だいしやう しま みやこしま
池間島、大神島、来間島、伊良部島、下
地島)で構成されています。

そうめんせき へいほう
総面積は204平方キロメートル、人
こうやくまん だいふ ぶん
口約5万6,000人で、人口の大部分は
ひらちんく しゅうちゆう
平良地区に集中しています。

しまぜんたい へいたん さんかくぶ おお
島全体がほぼ平坦で、山岳部や大き
な河川もなく、生活用水などのほとん
どを地下水に頼っています。



『みやこの歴史』宮古島市史第一巻 通史編 (2012)

宮古島市neo歴史文化ロード 綾道 (城辺東・北コース)

※御嶽は祭祀などを行う大切な場所です。神聖な場所なので入らないようにしましょう。

宮古島市の位置と面積	02
明治30年代の宮古郡図	03
散策マップ (城辺東・北コース)	06
城辺地区の概要	08
ぐすくベ字まめちしき	09
散策マップ (保良・新城コース)	10
東平安名崎 国指定名勝	12
東平安名岬の隆起珊瑚礁海岸風衝植物群落 県指定天然記念物(植物)	12
パナリの伝説	13
マムヤの屋敷跡・機織り場・墓 市指定史跡	14
マムヤの物語	15
宮古島保良の石灰華段丘 国指定天然記念物(地質)	16
石灰華段のできるまで	17
七又のミーマガー 市指定有形民俗文化財	18
鬼の杵、神の杵とウンヌヤー	19
ぐすくべのアギス(力石)七又・新城・西中 市指定有形民俗文化財	20
おっぱい山	21
仲原化石 市指定天然記念物(地質)	22
クジラまめちしき	23
散策マップ (西里添・下里添・福里コース)	24
宮古の地下水と地下ダム	26
旧西中共同製糖場煙突 国登録有形文化財(建造物)	28
旧西中共同製糖場跡 市指定史跡	28
黒糖ができるまで	30
上区の獅子舞 市指定無形民俗文化財	32
唐金兄	33
城辺と人頭税	34
前井と御神木その周辺の植物群落 市指定天然記念物(植物)	36



もくじ

城辺を一望できるいこいの森展望台	37
散策マップ (比嘉・長間コース)	38
西銘御嶽 市指定史跡	40
飛鳥御嶽の植物群落 市指定天然記念物(植物)	41
飛鳥爺の物語	42
飛鳥爺の関係図	43
山川ウプカー 市指定有形民俗文化財	44
宮古有数の水田 ナガマダー	45
高腰城跡 県指定史跡	46
高腰の按司	47
比嘉の獅子舞 市指定無形民俗文化財	48
野加那泉 市指定有形民俗文化財	49
瑞福隧道 市指定建造物	50
排水路の改修と新トンネル	51
野城泉 市指定史跡	52
ミヤコチスジノリ	53
浦底遺跡 埋蔵文化財	54
アラフ遺跡 市指定史跡	55
浦底遺跡やアラフ遺跡から出土した遺物	56
保良元島遺跡 市指定史跡	58
保良元島の竜	59
周辺の遺跡群	60
国指定天然記念物 (動物)	62
文化財の体系図	64
それぞれの文化財の一例	65



ぐすく へ
城 辺
ひがし きた
東・北コース

所要時間 : 約3時間
(約40km)

さん さく
● 散策コース

ショートコース

あらぐすく ぼ ら
 新城・保良.....P10
 にしざと そえ しも さと そえ ふくざと
 西里添・下里添・福里..P25
 なが ま ひ が
 長間・比嘉.....P38



城辺

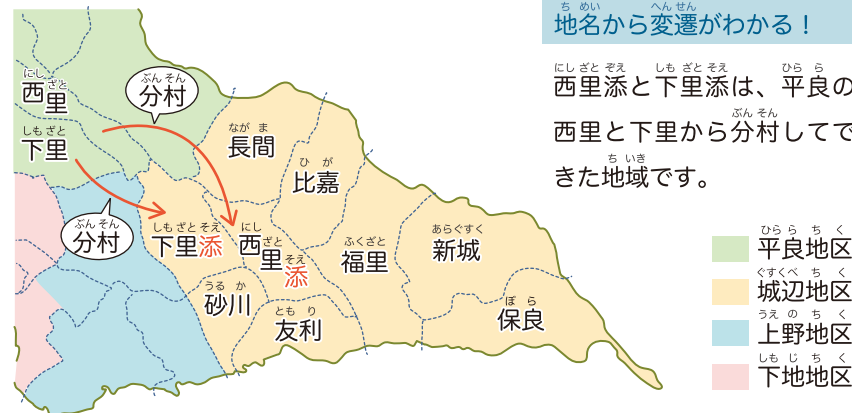


城辺の名称は、仲宗根豊見親が統治していた頃、友利、新里、砂川、宮国の4つの村や周辺地域を「城の方」と呼んだことから由来するといわれています。1908(明治41)年の特別町村制施行によって、9字の城辺村が誕生、1947(昭和22)年に城辺町となり、2005(平成17)年に市町村合併により宮古島市の一部となります。城辺は、地域を4等分するように3つの丘陵が東西に走り、その間はほぼ平坦な地形のため、農地として活用され、「農業のまち」として発展してきました。

ぐすくベ字まめちしき

地名から変遷がわかる！

西里添と下里添は、平良の西里と下里から分村してきた地域です。

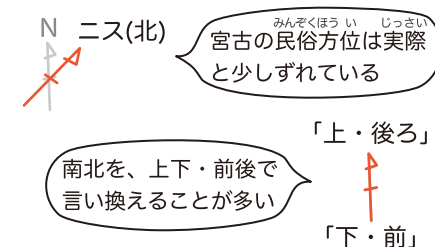


東西南北でざっくり区分け

住所にある小字ではなく、集落ごとのざっくりとした区分け(行政区)で、地域の行事などは行われています。

城辺は東西南北や上下が地名に多く使われています。

これがわかると地名の位置関係も納得！



1921年
(大正10)



保良・新城コース

アラフ遺跡 P55

島の東側は
遠浅のリーフが続く

散策コース
所要時間：1時間30分
(約18km)

指定範囲

渡り鳥の楽園パナリ

4種のアジサシ類の
集団繁殖地。
500羽ほどが飛来する。
5～9月は
繁殖期のため
おやみに近づかない



航海安全の神
を祀るパナリ御嶽
(場所は不明)

パナリ

東平安名岬の隆起珊瑚礁
海岸風衝植物群落 P12

約2km

START

保良漁港

平安名埼灯台
東平安名崎 P12

mamaya no kura P14

mamaya no kura P14

東シナ海 太平洋

天然の防波堤

ビーチロック
とは？



淡水性の炭酸カルシウムと混ざるとできる！
(諸説アリ)
海や浜に堆積した炭酸カルシウム(骨・貝・サゴ...)が自然のセメント作用で板状に固まった岩石

平良市内

アイギヤ

83

新城村総代 上原戸那
生誕地の碑 P34

吉野公民館

保良元島遺跡 P58

mamaya no kura P14

ぐすくべの
アギイス(新城) P20

保良村総代 平良真牛
生誕地の碑 P34

199

199

おっぱい山 P21

地下ダム公園

皆福地下ダム P26

ウンスヤ P19

390

ぐすくべの
アギイス(七又) P20

235

七又の
ミーマガー P18

ボラガー
水量が豊富

クバクンダイ
洞窟内に
石灰華段が
できている

島の南側は断崖絶壁で
海がすぐに
深くなっている
＝船も島に
つけやすい

このあたりは
水田だった

海ガの
産卵巣でもある

ビーチロック

マイバー

津波石
がたくん

車が
さかさまに

巨大な
ハマサンゴ

大津波

宮古島保良の
石灰華段丘 P16

波の
白い波が立つ
ところ

東平安名崎

追加指定 パナリ岩礁を含む周辺海域 2011(平成23)年 2月7日
灯台敷地 2014(平成26)年10月6日

けん し てい でん ねん き ねん ぶつ しよくぶつ
県指定天然記念物(植物)

1980(昭和55)年4月30日指定

東平安名岬の隆起珊瑚礁海岸風衝植物群落



東平安名崎は、国の名勝に指定され、日本の都市公園100選にも選ばれた宮古を代表する景勝地です。1998年には平安名崎灯台が日本の灯台50選に選ばれました。この一帯は常に強風のため高木は育たず、亜熱帯地方の風衝地特有の植物群落が発達しています。ミズガンピ、コウライシバ、ハマボス、イソマツなどの群落が見られ、特にテンノウメの群落は国内で例をみないほど広く発達しています。



パナリの伝説

むかし、パナリには女だけが住んでいる村がありました。

ある時、ティダ(神様)が天から降りて来て、ひとりの女と恋仲になり、女の子と男の子が生まれます。ティダは「男の子は私が天に連れて帰る。しばらくしたら連れに来る」といい、天に帰っていき

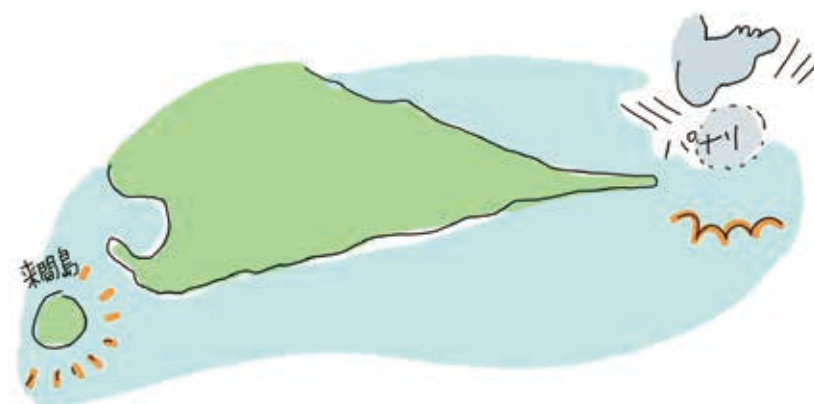
ました。それを聞いた母は、我が子連れ去られたら困ると思い、ティダを毒殺することを思いつき、子どもたちを子守に預けてウニヤ(ふぐ)を捕りに海に行きました。母を待つ間、泣いている子どもたちに「泣くな、泣くな、母は今ウニヤを捕りに海に行っている。ウニヤをティダ(父)に食べさせるために

行っている」と、子守が唄っていると、それを聞いたティダはとても驚きます。「妻がそんなことをするはずがない、もう一度唄ってみなさい」と命ずると、やっぱり同じ歌を唄いました。

それを聞いたティダは激怒し、大声をあげながら、アドゥゴル(かかと)で大地を踏みつけました。その途端、大地が激しく揺れ、パナリ村は沈没してしまいました。

するとその瞬間、宮古島の反対側に、海の底から島が浮き上がってきました。ちょうど、大きさも形も、島との距離も同じでした。これがいまの来間島だそうです。

『昭和初期よりの保良風俗史』(1992)より



や しき あと はた お ば はか mamaya no yashiki ato • hata ori ba • haka



ぼ ら ち い き むかし かた つ ぜっせい び じょ
保良地域では、昔から語り継がれている絶世の美女mamayaの
ものたり物語や、「mamaya no ayagu」という民謡が残されています。

そのmamayaが住んでいた屋敷跡が、ゴルフ場に隣接する畑内
にあり、産湯に使ったというmamaya-gaという井戸もありま
す。機織り場は、保良漁港の北側岸壁
にあり、畳2枚程の空洞になっていま
す。墓地は、灯台に向かう途中にあ
る、岩の空洞に作られています。



ものたり mamaya no monogatari

むかし びやうな
昔、平安名というところにニフ
ニリ(香草)の香りがするmamayaと
いう絶世の美女がいました。

その評判を聞きつけた野城の按
司は、mamayaに一目会いたいと、
平安名近くの海岸を毎晩のように
さが みる
捜し歩きました。

ある晩、老若男女が踊るクイ
チャーの輪の中に、一際目立つ
mamayaを見つけます。按司はここぞ
とばかりにmamayaを誘い、妻と子
がいることを隠してmamayaと結婚
の約束をしてしまいました。

しかし、いつまでも妻と子がい
ることを隠しとおすことはできま
せん。按司は「いつか妻とは離縁
するから」とmamayaを説得し、野
城に連れ帰ります。

ところが、妻とmamayaの板ばさ
みにあい、悩むうちに、按司は子
どもの将来を考え、とうとうmam
ayaに「今、お前と一緒にいるのは



たの 楽しい。だが、子どもが安心する
のは、子どものうんちやおしっこ
の匂いがついた妻だ」と話しまし
た。信じて待っていたmamayaは、
ぜつぼう 絶望のあまり生きる意味を失い、
むら 村に帰ることもできず、海辺をさ
まよい歩きました。そのうちmam
ayaは織り残した機織りが気にかか
り、こっそり持ち出して、平安名
崎の洞窟に隠れ住みました。

一方、mamayaの着物や機織り機
がないことに気づいた両親は、娘
を捜しまわります。平安名崎まで
来ると「カッタン、カッタン」と
いう機織りの音が聞こえてきまし
た。母はmamayaの名を呼びながら
その音のする方へ向かいました
が、いつまでたってもmamayaを見
つけることはできませんでした。

母は泣きながら「素直で優しい
mamayaはどこへ行ってしまったの
でしょうか？神様お願いします。
この村にmamayaのような美人は二
度と生まれないようにして下さ
い」と祈ったという話です。

みや こ じま ぼ ら せつ かい か だん きゅう
宮古島保良の石灰華段丘



せつ かい か だんきゅう べつ めい ていだ がー よ ぼ ら みやーど がけた はったつ
石灰華段丘は別名太陽泉と呼ばれ、保良宮土の崖下に発達
しています。炭酸カルシウムを多く含んだ地下水が地表に流
れ出して水分が蒸発することで、石灰の成分(石灰華)が分離
し、沈殿して小さな棚田状の池を作っていきます。

こ いじょう
太陽泉には300個以上の小さな池が
あり、鍾乳洞以外の野外で石灰華段丘
が形成されることは珍しく、学術上貴
重な国指定文化財です。



せつ かい か だんきゅう
石灰華段丘のできるまで

雨水が
石灰岩の中を
通ることによ
って、
炭酸カルシウム
が多く溶け
込んだ水にな
る。

石灰岩

粘土層

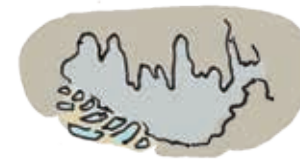
太陽熱で水分が
蒸発し、石灰の華が
沈殿することで、
棚田状のダムができる

糸状の
傾斜と
絶妙な水量で
安定して流れ
続ける地下水が
あることで形成される

森林が減ると保水か
や水量が下がり、形成
に影響がでる可能性も。

大小の池が
300以上もある！

波打ち際は華段と
ポットホールがまがっている



保良洞窟
(クバクンダイ)のように
洞窟内ではよく
見られるが、海岸に
できるのはめずらしい。

ポットホールとは
石が波の力で
転がることに
よって、岩が削れて
できる穴



300以上ある棚田状の池



華段とポットホール(海ぎわ)

注意

× 踏んではダメ！

踏んではつと、
成長中の華段が崩壊し、
そこで成長が止まってしまう。

なな また

七又のミーマガー



ミーマガーは、七又集落東南の嶺間の崖下にある湧き水です。このあたりは湧き水が少なく、ミーマガーは集落唯一の水源地でした。崖を岩伝いに降りねばならず、水運びは重労働でした。戦後、集落内に井戸を掘ったものの水量が少なく、昭和30年頃まではミーマガーも使用しました。節まつりの時には「ンマリガー」の水として使用され、この水を浴びると若返るといわれています。



鬼の杵、神の杵とウンヌヤー

さとうきび畑の真ん中に、2本の石が立ち、神様と鬼が対決した場所といわれています。

また道をはさんだ反対側に、ウンヌヤーと呼ばれる洞穴があります。戦時中は避難壕として利用されていましたが、いまは埋められ、中に入ることはできません。



むかし、七又に住む娘が、織り上げた反物を納めに平良へと向かいましたが、思いのほか時間がかかって夜になってしまいました。そこで、一晩泊めてもらおうと明かりのついた家に入ると、ドゥルドゥルと鍋で何かを煮ています。ふと覗き込むと、なんとそれは人間でした。「アガイトンディ！ここは鬼の家だ！」と逃げようとした矢先に、戻ってきた鬼につかまってしまいました。

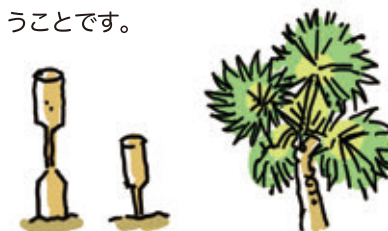
このままでは殺されると思った娘は、「便所に行きたい」と申し出ます。鬼は逃げないように腰に紐を結びましたが、娘は藪の中でこっそりとひもをはずし、夢中で走って御嶽に逃げ込みました。

しばらくして逃げられたことに気がついた鬼が御嶽まで追いかけてき

て、神様に女を返せと騒ぎたてます。そこで神様は「では杵を投げて勝った方が首をもらうことにしよう」と鬼に勝負を申し出て、お互いに杵を投げ合いました。

結果は、鬼の杵は地面に浅くつきささり、神様の杵は地面に深くつきささりました。神様の勝ちです。

そこで神様は約束どおり鬼の首をとり、クバの葉で包み、「クバの葉が枯れたら降りて来い」といつて天にあげました。ところが、クバの葉は年中青々としているので、今でも鬼は降りるに降りられずにいるということです。



ぐすくべのアギイス(力石)七又・新城・西中



七又



新城



西中



戦前は各集落で青年による力試しが盛んに行われていました。「アギイス(力石)」は、今でいう重量上げに相当します。各集落の公民館などに、大小2個のアギイスが備えられ、肩まで持ち上げる方法と、両手で頭上まで持ち上げる方法がありました。力試しが行われなくなった戦後、多くの石が行方知れずになりました。



おっぱい山

いつの頃からか「おっぱい山」と呼ばれ、親しまれているふたつの山は、女性の胸を想像させるユーモラスな形をしています。「おっぱい山」は、「西の森と東の森」という民話として残っています。



昔、ティダ(神様)が、アウダ(もっこ)にふたつの森を乗せて歩いていました。パスツ(路地)にさしかかった時、ティダは石につまずいて転んでしまいました。その勢いで落としたふたつの森が「西の森」と「東の森」になり、アウ

ク(天秤棒)は「南の嶺」となりました。そしてティダがひざをついてできたぼ地からはとうとう水が湧き出てきたので、ティダパイカー(ティダが掘った井戸)というようになりました。

